

井上龍太郎最後の広報原稿。3月14日に東京の総括研修に参加。16日に公開報告会、これにて19期の緑のふるさと協力隊の任期が終了です。時間がたつのがあっという間でした。

協力隊に参加した理由は知識だ



けの頭でっかちから脱却して自身を成長させることでした。自分の殻を破るには、今まで自分しなかったことや避けていたこと、人付き合いの面で苦手なタイプの人と付き合いをざる得ない環境に行つて長期間生活することです。大学4年生のときに様々な悩んだ末に緑のふるさと協力隊への参加を

決めました。結果オーライでした。苦楽様々なことがあり最後まで任期をまっとうできたのは、この約11ヶ月の活動の中で知り合つてきた人たちの支えがあったからだと思います。そもそも人はどこに住んでいても人間関係があつて生きていけるのだということに改めて思い知らされました。これは、都会や田舎どちらであつてもいえることだと思ひました。東京にいたときは忘れ

がちになっていました。

3月2日の町内報告会では、忙しい中様々な人たちに参加してもらえました。懇親会では度数の高過ぎるお酒を飲みだいぶフラフラしていましたが、なんとか無事に終えました。今回は、神楽の披露で歴代初めて二つの舞をしました。一つ目は折居神楽で、4人で舞いました。自分はつくづくリズムが悪く、人の動きに合わせて舞うのが苦手だということ再認識しました。二つ目の舞は盆神楽で、このときは初めて新品の衣装を着て舞つたので盆を落とすそうで大変でした。また、会場の床がものすごく滑るのでそれも厄介でした。厳しい要素が二つ重なりましたが、何とかミスもなく舞い終ることができました。少々残念なことはこのときは時間的に見ていた人たちが少なかつたことです。今回の写真真神楽を舞つた後に撮影した記念写真です。

自分の今後の進路について、11・12・1月と様々な悩みました。町に残るか町を出るか、様々な人達に相談し人生経験を聞きました。

自分の進路を決めるとき何が必要か、それは、未来への展望、覚悟、方向性、自分が何に本気を出せるのかということだと思ひました。一時期は町に残ろうと決めたこともありました。仕事も探しましたが、どうしても迷ひがありました。新年が明けて、ある人に相談したところ、自分の中でやりたいことがあり、その思いが強いがためにあともう少しのところで覚悟を決めきれないのだということがよくわかりました。かつてお金にならぬ、職につくのが難しい、ほんといふ理由であきらめたジャーナリズムやカメラへの夢に対する未練が強いことでした。結果的に町を出ることに決めましたが、この約11ヶ月でできたつながりは今後につながると思ひ進むことにしました。自分のやりたいことをしてその結果が様々な人の役に立ち社会に貢献できればよいと思ひます。この約11ヶ月、ありがとうございました。